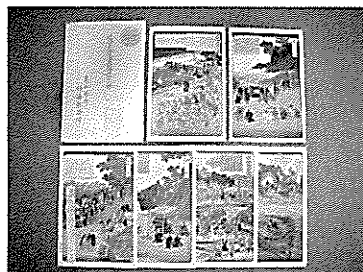


点描

北海道50年の歩み—真宗同朋会運動— No.19

2009
平成21年

1937年、北海道教区作成の「現如上人北海道行化之跡」(錦絵)

北海道「開教」百年
「東本願寺北海道『開拓』錦絵」をめぐって

錦絵は甦る。北海道の「開拓・開教」の歴史を振り返り、新たな歩みを期そうとするたびに、錦絵は甦ってきた。

「東本願寺北海道『開拓』錦絵」は、現如上人の渡道後間もない一八七一年(明治4)、東京の「甘泉堂」から刊行されたという。

宗派は半世紀後の一九二九年(昭和4)、現如法主七回忌法要に際して、北海道「開拓」を「我

国未曾有の壮挙が如何に当時の人心に異常なる感激を与えた」(『真宗』六月号)と、甘泉堂版から六枚を選んで復刻し、「東本願寺版」として法要の記念品とした。

北海道教区は、一九三七年(昭和12)に「東本願寺版」を縮小した錦絵を独自に発行した。これは大谷光暢法主夫妻が七月十八日から約一カ月、北海道を巡化した際、北海御廟で行われた「開拓」功勞者並びに納骨者追悼法要の記念品としたものである。

さらには、一九六九年(昭和44)の教区の「開教」百年法要が勤められた翌年、『北海真宗』六月号に、錦絵と詞書を活字化して掲載し、「開教」百年の歩み出しを期そうとしている。

錦絵は、時代を経てなお、北海道教区のアイデンティティーを認める際に甦ってきた。

錦絵が持つ問題性は、かねてより教団内外から指摘されていたが、アイヌ解放同盟等の確認会をもつて状況は一変した。ここから錦絵を批判的な眼をもつて確かめようとする教区の営為は加速していく。

社会教化部門差別問題研究部会が錦絵の問題性を解説した展示パネルを作成したのをはじめ、『アイヌ民族差別学習資料集』の刊行を受け、本山指定の解放運動特別指定伝道研修会「アイヌ民族差別に関する学習会『共なる世界を願って』」の全カ組実施を目指した取り組みも始まった。

社会状況としても、国会での決議や有識者懇談会の設置など、アイヌ民族の尊厳回復に向けた機運が高まっていた。

このような状況下の二〇〇九年(平成21)、札幌市中央図書館が「本願寺街道から道の駅へ」昔のみちと今のまち」と題した企画展を行った。展示には、錦絵が何の説明もなく掲げられ、弥永北海道博物館刊行の『北海道開拓と本願寺道路』も含まれていた。

アイヌ協会は、展示内容の問題性を指摘し、北海道教区に指導を受けるよう中央図書館に助言した。

これに対し、教区は解放運動推進本部と連携し、かつてアイヌ解放同盟等による確認会を経て作成された小冊子『北海道開拓と本願寺道路—資料による開拓の歴史—』発刊に対するアイヌ民族からの問いかけを受けて「をもつて中央図書館と協議した。

そのとき大事にしたのは、間違いを指摘するのではなく、自分たちが錦絵をどのように捉えて過ったのか、どのように学び直しているのかを話し合うことにあった。

北海道に生きる者として、アイデンティティーをどこで確かめようとするのか。今が過去の歴史をおして問われている。

(速水 馨)

※文中の呼称は当時の記載に準じた。